

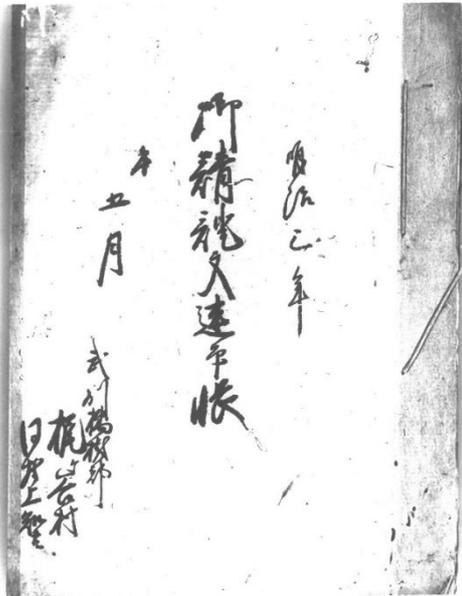
【資料紹介】 イギリス商人ホーイ殺害事件の犯人を捜せ！

～御請証文連印帳に記された人相書～

今回紹介するのは、複製古文書「筑波大学蔵旧田村家文書」（整理番号：60-24-6）に収録されている明治3年（1870）における「御請証文連印帳」です。

文書を保管していた田村家は梶ヶ谷村の名主であり、江戸時代から明治時代までの諸史料を所有していました。田村家が所有していた原文書は現在では筑波大学、神奈川県立公文書館、川崎市市民ミュージアムが所蔵しています。川崎市公文書館では昭和60年代に『川崎市史』編纂のための資料調査が行われた際に撮影・収集した複製資料を保存・公開しています。

この「御請証文連印帳」の中には溝口村組合が神奈川県へ提出した御請証文の内容が記されています。明治2年（1869）11月25日に横浜居留地で発生したイギリス商人ホーイ殺害事件の犯人捜索のための触書です。そこには犯人の人相書も記されています。



犯人の名は浅草出身の清吉という人物だそうです。その犯人の特徴を記した人相書には次のように記されています。

- 一、年齢式拾三四歳位
- 一、丈高き方
- 一、色黒き方
- 一、丸顔ニ而あこ古希（こけ）候方
- 一、眼大きく右の目の下壹寸式分程之疵有之
- 一、背中に武者之彫物有之由
- 一、外常躰

年齢は23～24歳位で背丈は高く、肌の色は黒く、丸顔で顎がこけ、眼は大きくて右目の下に1寸2分（約4cm）ほどの疵がある人物のようです。そして、背中には武者の入れ墨を施しているそうです。

このような特徴の人物の捜索が神奈川県から川崎地域の村々にも命じられており、明治3年5月3日に溝口村組合総代の太郎右衛門（井田村名主）・伊助（小杉村名主）の名で御請証文が差し出されたことがわかります。

この事件は明治2年（1869）11月25日に発生しています。川崎地域の村々が証文を出して了承したのが明治3年5月3日になります。事件発生から約半年が過ぎていました。

しかし、それでも犯人逮捕には至らず、やがてイギリスとの国際問題に発展していくことになります。

事件発生から1年近くが経過しようとしていた明治3年10月、イギリス公使館にて外務卿澤宣嘉・外務大輔寺島宗則がイギリス公使パークスらと会談します（『大日本維新史料稿本 二六九』）。

そこで、パークスは怒りを表明するように以下のように発言しました。

「是迄誰ガ悪くと申訳ハ無之候得共、只日本政府之恥辱ニ候」

（これまでの経緯で誰が悪いとは言わないが、ただ日本政府の恥辱になっている）

パークスはさらに中央政府（太政官）にまで話を通そうとし、政府のトップである三条実美（右大臣）との直接会談などを要求します。日本政府としては横浜居留地に駐屯しているイギリス兵などの退去を求めている時期であっただけに、その実現も遠のいてしまう状況でした。日本政府は非常に苦しい立場に置かれていました。

パークスと会談した三条実美は次のように述べています。

「最早壹ヶ年も相立候ニ暗殺致候当人も取押実効も不立者貴国江対シ我政府之政令も不行届ニ相見へ誠ニ慙愧之至ニ候、然シ探索ニ手を不尽ニ者あら須」

（もはや事件発生から 1 年も経つのに犯人も取り押さえられていない状況では貴国（イギリス）に対して日本政府の政令も不行き届きに見えてしまい誠に恥じております。しかし探索を疎かにしているわけではありません）

このように川崎地域の村々にも伝えられた横浜居留地におけるイギリス商人殺害事件は国際問題に発展する重要事件でしたが、結局のところ犯人が逮捕されたのかどうかなどの顛末は不明です。今後も注目して調査を進めてまいります。

今回紹介したのは 2022 年 3 月 12 日に開催された川崎市公文書館古文書講座（特別編）「明治二年における横浜居留地イギリス商人殺害事件と日英外交」の内容です。川崎市公文書館では当日に使用したテキストも販売しております。

これ以外にも川崎市公文書館には沢山の複製古文書を所蔵しております。
ぜひご利用ください。

<資料情報>

複製古文書「筑波大学蔵旧田村家文書」（整理番号：60-24-6）

※閲覧・複写の際には利用申請書・複写申請書を記入いただきます。

[川崎市：歴史的公文書等の情報提供 \(city.kawasaki.jp\)](http://city.kawasaki.jp)